

東日本大震災からちょうど6年になる平成29年3月11日、南多摩病院は大規模災害訓練を行いました。

今回は、東京都や八王子市地域の防災計画の中でも最も重要である緊急医療救護所の設置、傷病者の重症度を赤、黄、緑、黒など各エリア内に振り分けて評価するトリアージ、軽症者の応急処置、中等度以上と判定された傷病者の病院内への搬送、院内での再評価と医療処置、EMIS（広域災害救急医療情報システム）入力など、実際の災害発生に即した訓練を実施しました。



訓練には当院の医師、看護師のみならず、救急救命士、検査技師、リハビリスタッフなどのコメディカル、また事務職員あわせて 80 名が参加しています。

模擬患者役として散田町東町会の住民の皆様、創価大学看護学生諸君の 50 名が参加し、トラウマメイクを施されて、本番さながらの名演技で協力を頂きました。

また、八王子医師会、歯科医師会、薬剤師会、八王子市役所、八王子消防署、更には J R 東日本西八王子駅など近隣事業所からも多数の参加を頂いております。



災害時に設置される緊急救護所は、八王子市内に 15 か所の設置が想定されていますが、多くの市民や医療関係者から関心が寄せられ、延べ 250 名に及ぶ見学者が来場されています。参加職員は一人ひとりが熱心に取り組み、訓練を実施することの重要性を再認識し、今回の訓練を通じて大きな成果を得ることができました。

南多摩病院は、大規模災害発生時に緊急医療救護所の機能を十分に活かし、安心・安全な街づくりに貢献して参ります。

